

⑤ 万年寺庭園八景苑のとキリシマ苑 (七見)



④ 椿原家 (時長)



③ 背戸家 (秋吉)



② 蔵屋家 (秋吉)



① 旧藪家の庭 (恋路)



⑥ 久保家 (柿生)



⑦ 山下庭園 (柿生)



⑧ 日吉神社 (柿生)



燃 えるような深紅の花は、発祥の地である霧島連山の人の心にも火を付けた。NPOが昨年3月に新宿御苑で開催したキリシマ展がきっかけで、「キリシマ連山稀少植物保全調査会」の会員や霧島市関係者など15人が満開の時期にのとキリシマツツジの視察、調査に訪れた。

NPOの案内で、オープンガーデンとして公開されている奥能登4市町の古木を中心に視察。会長の池田靖さんは「能登のキリシマツツジは、歴史を感じるものが多くすばらしい。私たちも地元のキリシマツツジを大切に、PRしていきたい」と視察の感想を話していた。

鹿兒島県の調査団がのとキリシマを視察

5月16日～18日

7 年目を迎えた「のとキリシマツツジフェスティバル」。今年も能登空港の一角を真っ赤に染め、訪れた約1万8千人を魅了した。

ひときわ目を引く大きなのとキリシマツツジは、梅晴夫さん(柳田)所有の樹齢約三百年の古木。加賀藩十三代藩主前田斉泰公がその見事さに感嘆の声を上げたといえられている輪島市赤崎町の巨樹より株分けされたものだ。NPOのとキリシマツツジの郷のメンバーが、特注ビニールハウスで20日間、昼夜を問わず暖めて早咲きさせた。見事に咲き誇った「情熱の赤」に、多くの人が吸い込まれるように見入っていた。



⑯ 芦田家 (中斉)



⑮ 酒井一家 (五十里)



⑭ 水木家 (柳田)



⑨ 炭谷ツツジ園 (武連)



⑩ 多田家春蘭の宿 (宮地)



⑪ 能登町柳田植物公園 (上町)



⑫ 福池家 (天坂)



⑬ 新谷英夫家 (柳田)



⑬ 梅家 (柳田)

※オープンガーデンの名称は、noto色スポットパンフレットから引用しています。

小木 も 旗

ogi
tomobata
matsuri
May 2-3, 2011

『神旗願復興』
石川県指定無形民俗文化財『小木とも旗祭り』は5月2日と3日両日に開催された。
海の安全と豊漁を願う春祭り。9つの町内が1カ月以上かけて制作する高さ約20メートルとも旗が小木港や九十九湾をゆつくりと周回する。旗には、願いを込めた5文字が描かれる。今年、東日本大震災を受けて『神旗願復興』の文字もあった。
3日午後3時ごろには、小木港のシンボルである中型イカ釣り船に、御輿を乗せた御座船と9本のとも旗がつながれ港内をパレード。大勢の見物人が勇壮な海の祭りを見守った。
とも旗祭りから1カ月後の6月上旬には、小木のイカ釣り船団がスルメイカを求めて日本海へと出港する。

